

玉川教会たより

NO. 493
 2017年5月21日
 町田市玉川学園4-5-32
 TEL. 042-732-9321
 FAX. 042-732-9337
 Eメール chiyosi514@yahoo.co.jp

『主の祈り』

マタイ6：1～15

▼偽善者の語源は、舞台の上立って演技する者、俳優です。演技者は、役柄に合わせて、仮面を被って舞台に立ちます。舞台の上では、自分の素顔・正体を隠すことから、偽善者という意味になりました。偽善者、そこに素顔、真実がありません。素顔のままでは絶対に出来ないような、悪事を、仮面を付け替えるとしてしまう、当たり前のように行ってしまふのです。何よりも、兵士の仮面であり、役人の仮面です。会社員という仮面をつければ、賄賂を送ったり、裏金を作ったり、いかがわしい接待をしたり、そういう悪事が出来てしまふのです。悪事をしているのは、本当の自分ではなく、仮面です。そういうことで、納得してしまふのです。自分で免罪しているのです。

▼今日の箇所です述べている偽善者は、1節、『見てもらおうとして、人の前で善行をし』5節、『人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる』とあります。その結果、3節『彼らは既に報いを受けている』、5節『彼らは既に報いを受けている』とあります。報いという字は、ミススというギリシャ語で、今日の言葉なら、ボーナスです。彼らは役者だから、報いを、＝報酬、ギャラとして受け取ってしまっている、だから、天国の門での裁きの時に、それ以上の報酬・ギャラはありません。もう勘定は終わっているのだから、天国で受け取る分は何もありません。こういうことです。

▼ここに登場する偽善者とは、パリサイ・律法学者です。その背景を簡単にお話します。今日で言えば学校ということになりますでしょうか。私塾です。ここに描かれているように、辻に立って、演説したりお祈りしたりすると、それが弟子の勧誘になります。

要するに、2節、『人からほめられようと会堂や街角で』演説するのです。それが弟子の勧誘になります。その結果は、『人からほめられ』、弟子が集まります。

初めから、神さまに向けて祈っているのではありませんから、当然、この祈りは、神さまの所には届かないでしょう。

▼そこで、神さまの所に届くように祈りたかったなら、6節、『あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる』。

真に、祈りたいと思うならば、隠れた所で、人々からの賞賛という報いを得ないようにこそ、祈らなくてはならないのです。『施し』についても同様です。

▼まるで、神さまは聞いていないかのように、祈ることがあります。神さまに近況報告をすることがあります。状況説明することがあります。しかし、神さまが人間に教えて貰わなければならないことはありません。情報でも、教えでも、そして、その人の心の内側のことでも。

▼イエスさまが、私たちに主の祈りを下さったのは、私たちの中に、このように祈りから離れてしまう傾向が強くなるからだと思います。祈りから離れてしまふ、祈らなくなるということではありません。偽善者の祈りに走ってしまふのです。

▼宗教改革の意味、礼拝改革とか教会政治の改革とかいろいろな意味が重なっていると思いますが、何と言っても、最大のことは、誰もが自分の国の言葉で聖書を読むことが出来るようになったという点です。そしてもう一つの宗教改革の意味、誰もが自分の言葉で祈ることが出来るようになったことです。

▼偽善者の祈りは、全くこの逆の仕業です。人々の賞賛を目的としてなされる偽善者の祈りは、結局は、祈りを独占しているのです。人々の賞賛を目的としてなされる偽善者の祈りは、その祈りを聞いている者をさえ、阻害しているのです。

… 2頁に続く。

偽善者の祈りに必要なのは、自分自身だけです。神さまも、人も、本当は要らないのです。

▼主の祈りが与えられたことの意味は、この点にこそあります。主の祈りの内容も勿論重要であります。しかし、内容と共に大事なことは、私たちが祈ることの出来る言葉が与えられたと言うことです。祈ることが許されたのです。言葉が与えられたのです。